徳島県総合計画審議会「若者クリエイト部会」会議録

Ⅰ　日　時　　平成２５年１１月１１日（月）１５：４０～１６：１５

Ⅱ　場　所　　南部総合県民局美波庁舎３階　３０１会議室

Ⅲ　出席者（敬称略）

【委員】１０名中　８名出席

青木正繁（部会長）、
蔭山洋子、川眞田彩、近森由記子、
池添純子、岡田育大、竹内祐介、村松享

【オブザーバー】１０名中　５名出席

高木和久、榊原陽子、島知佐、
小原和浩、石井里奈

【県】

政策創造部副部長、総合政策課政策調査幹　ほか

Ⅳ　次　第

（ ～ 現 地 視 察 ～ ）

１　開　会

２　議　事

（１）人口減少時代における地域を支える仕組み
～地域が直面する重要課題への対応～

（２）その他

３　閉　会

《配付資料》

資料①　若者クリエイト部会　現地視察

資料②　徳島県南部圏域振興計画（抜粋）

Ⅴ　意見交換

（事務局）

皆様、長時間にわたる現地視察、お疲れさまでございました。ただ今から意見交換会に移らせていただきます。

この後の議事進行につきましては、青木部会長さん、よろしくお願いいたします。

（青木部会長）

それでは、早速進めてまいりたいと思います。

本日は、本当に長時間にわたっての現地視察、御苦労様でございました。

さて、今回は、「人口減少時代における地域を支える仕組み　～地域が直面する重要課題への対応～」ということをテーマに、意見交換をお願いしたいと思います。

しかし、あまり堅くいくと前から私が言っているとおりですので、そうじゃなくて、今日の現地視察を踏まえて、現状や、また、こういった課題があるんじゃないかという課題などについて、皆さんが本当に今日肌で感じたようなこと、また、それ以外にも施策のヒントとなる「キーワード的なもの」から、もちろん具体的な提言まで、何でも結構でございますので、御発言いただければと思います。

ただし、いつもながら時間が押しておりますので、自由議論にすると時間が多分オーバーしてしまいますので、感想でもいいので、一人ずつやっぱり御発言を、せっかく現地視察に来たので、皆さん全員から一言ずついただきたいなというのがありますので、じゃあ、池添さんから、一言ずつ言っていただければなと思います。よろしくお願いいたします。

（池添委員）
まず、一番最初の美波町の防災についてはですね、私は仕事の関係もありまして、２、３度もう既に行ったことがありました。で、いつもまちづくりなんかの話をするときもそうなんですけど、結局は住民自治がどれだけ事前にできているかというのがすごく大事だなといつも思っていて、物理的なモノをつくって、震災とか災害から逃れるというのは準備ができるんですけど、その後の避難生活であったりとか、起こった瞬間にどうフォローするかというのは、やっぱり知り合いがどれだけいるかとか、一致団結する立ち上がりの早さがどれだけあるかというのは、事前にどれだけ地域にコミュニティがあるかというのが大事だなと思っています。
特に、先ほどお聞きしたら、婦人会がもうなくなってたとおっしゃってたんですけど、避難生活とか事前復興計画の中でも、女性の視点というのは、生活をする上では絶対必要になってきていて、東北の事例とかでも、避難所の場所をどうするかとか、敷居の高さをどうするかとか、すごい些細なことでも、女性の意見があるかないかで全然違うということを言われているので、別に災害のための自治組織でなくてもいいので、いつも何か仲間でやっているような地域の活動というのが、ＰＴＡでも何でもいいんですけど、そういう会があったらなというのを感じました。

（青木部会長）
ありがとうございます。自治組織の大切さというのを一番池添委員さんは言いたかったということですね。ありがとうございます。
では、続いて石井さんお願いいたします。

（石井オブザーバー）
私も最初に行かせていただいた由岐地区のところで、私は板野町なので、津波はまず心配はないかなと言われているところなので、町としては、津波対策としてはほとんどやってない状態です。町の取り組みも、自主防災組織率がすごい低かったので、立ち上げたり

とかしたんですけど、今日見させてもらって、自分の町だけ考えているのでは、言うのは簡単ですけど実際するのは難しいと思うんですけど、「ここも阿南市さんに協力をいただいて」とか言ってたので、うちの町も広域で協定を結んでいるんですけど、実際起こったらどうなるのかというのをすごく考えました。松茂町さんだったら逃げるところがないとか、そういうのを思ったので、浜さんも言ってたんですけど、「広域で考える」というのが大事だなと感じました。

後のところなんですけど、東日本大震災以降、良いのか、悪いのか、津波の心配がない板野町にということで、企業が何件か来ていただきました。

で、今日ＩＣＴ関係になると思うんですけど、そういう企業誘致、人とのつながりとかを見させてもらったので、持って帰ってみんなに言いたいなというところです。ありがとうございました。

（青木部会長）

ありがとうございます。やはり防災の視点で、広域での施策という視点ですね。それは本当に大事なことでありますし、自分の町、皆さん今日は各県内、北から東から西から南まで各地から集まっていただいておりますので、そういった視点から、石井さんは見ていただいたということですね。ありがとうございます。

では、岡田さんお願いいたします。

（岡田委員）

由岐町に関しては、防災の視点じゃないんですけど、「地域おこし協力隊」の女の子が入ってたという話なんですが、実は一年で帰っちゃったんですね。で、それは何でかという話を聞いてたら、「仕事ふりすぎた」という回答でした。だから、本当はその子もすごく穏やかな子で、ボチボチやっていこうという考えだったのかもしれないんですけど、その中で、たまたまその内いろんな仕事が結構とれたということで、地域の魚を直送で、お中元とか歳暮とかでみんなに送るとか、そういうことをやってたんですけど。だから、そういう人が核になってやっていけそうなところで、もう「地域おこし協力隊」がいなくなりましたとなると、もうそこで止まっちゃう、のはちょっと寂しい。だから、そこをつないでいってもらいたいなと。そしたら、もしかしたら出てこないおばあちゃんも、もしかしたら、そういう人には心を開いて出てくるかもしれないし、何かそういったつながりになるのかな、みたいなところは感じました。

あと、サテライトオフィスに関しては、ある意味やっぱりすごく成功例じゃないのかなと。僕も初めてこちらの美波のサテライトオフィスに来たんですけど、僕自身もすごく勉強になることが多かったので、「イノシシも捕ってる」とか。自転車とか、釣りとかサーフィンは想像ついたんですけど、イノシシというのはちょっとびっくりしたなというところです。以上です。

（青木部会長）

ありがとうございます。「地域おこし協力隊」のそういったつなぐ視点。それとサテライトオフィスの今のおっしゃったような視点。イメージとは全然違って、私も岡田さんと

同じで、最後残ったときに、「どこで捕るんか」というのとか、そういったところまで実は最後聞いたりしましたので。それと、南にこのサテライトオフィス、実は個人的に初めてだったんですよ。正直申し上げて。ですから、こういった成功しているサテライトオフィスという視点では、非常に県南域で今後根付いていくんじゃないかというふうに、これは個人的にも思いました。ありがとうございました。

小原さんお願いいたします。

（小原オブザーバー）

まず、由岐で津波の避難の話を聞かせてもらって、県南の方はやっぱりすごい危機感を持って自分のこととして考えているなと思いました。私、徳島市の職員ですけど、徳島市でも５メーター、６メーターというのが来てて、もし実際にそれが来たら、一番被害が大きいのは、やっぱり徳島市とか北の方。人数、建物見てもそうなので、そのへん地域的な温度差があるなと。ただ、やっぱり考え過ぎもいかんけど、やっぱりちゃんと準備をどんどん進めていかないかんなと思いました。

「震災前過疎」みたいな感じで、そもそも職場もないし、震災前から出て行ってしまうというところは、やっぱり地域に産業が必要で、サテライトオフィスとかを見せてもらって、全然サテライトオフィスと津波って違うように思いながら、サテライトオフィスとかを持ってきて、地域に若い人が来て、地域が元気になってきたら、「震災前過疎」みたいな問題も解消に向かっていくのかな、などと思いました。以上です。

（青木部会長）

ありがとうございます。やっぱり地域的な温度差というのは、私も実は阿南の南の方なんですけど、やっぱりそれと徳島市とかなると、微妙に温度差はあるんとちがうんかなと。これは個人の意見ですけど。

（小原オブザーバー）

５メートルでも１０メートルでも家流されるのは一緒なので。

（青木部会長）

そのとおりです。やっぱりそういった防災の意識というのも、徳島県沿岸部のみならず、東の方もおられます、西の方もおられますので、やっぱり中山間地域でも、土砂災害等の崩壊のおそれ等、十分にありますので、やはりそういった温度差の解消といった視点は大事ではないかと思います。

それと、サテライトオフィスで、その地域の若い人ね、私も「地元の採用はないのか」みたいな質問をさせていただいたんですけども、やはりそういった視点というのも、外から来るのみならず、やっぱり地元での採用というのも、若い人が根付くためには必要な方向性ではないかなと思います。ありがとうございます。

続いて、蔭山さんお願いいたします。

（蔭山委員）

まず、由岐の方なんですけれども、津波が来るということですとか、町の被害状況ってすごい深刻だなと思ったんですが、逆に、本当に私も徳島市内に住んでいて、「自分がじゃあ実際どこに逃げるか」とか、「周りの人がどこに行くのか」、皆さん共通した認識って全然ないと思うし、隣の方とそういう話をしたこともなかったんですけど、逆に、地域にお住まいの方は、「ここに逃げるんだ」っていうのを具体的にイメージできているというのは、すごくいいことだなというふうにある意味思いました。ただ、「８０歳以上の方でも上がっては来れる」とはおっしゃってたんですけど、荷物を担いで上がって来るとなると、ちょっと厳しいかなと思うので、やはり「検討している」とおっしゃってましたけど、飲み物ですとか、ちょっとした食べ物ですとか、備蓄できてたら、よりいいのかなというふうに思いました。

サテライトオフィスの方なんですが、１００年以上経っている銭湯ですとか、建物に、ああゆう最先端のＩＣＴの仕事をしているというギャップが、私も初めて拝見させていただいて、すごくおもしろいなというふうに思いました。

で、やっぱり私たちが思っている以上に、ああいう自然だったりとか古い建物って、都会の人には魅力的に映るんだろうなと思いました。ただ、サーフィンが好きとか、釣りが好きっていう、結構趣味で惹かれて来ている感じのお話が多かったので、「じゃあ、将来的なことをどういうふうに考えていらっしゃいますか」と伺ったんですけれども、「別にノープランです」みたいな感じだったんですね。「居るかもしれないし、飽きたら帰っちゃうかもしれないし」ぐらいのちょっと失礼ですけど、「今、釣りが楽しいとか、サーフィンが楽しい」というところに惹かれて来ているのかなというふうに感じたので、「じゃあ結婚して、５年、１０年住むのか」ですとか、そういうことを考えると、ちょっとどうなのかなというのは正直思いました。

地元の方の採用にしても、私はあまりＩＣＴとか詳しくないですけど、すごい皆さん技術を持っていらっしゃいますよね。そこに地元の方が一人パッと入っていって、「一から教えてください」みたいな感じになっても、「また仕事を教えてあげる」っていうところまで手が回らないんじゃないかなと思ったり、そうなると、今、中学生とか学生さんで勉強されている方が技術を取得した上で参加するというのは有りなのかなというのを思ったんですけど。そうなると、１０年後、その組織がどうなっているのか、受入体制とかどうなっているのかっていうところまで、やっぱり長期ビジョンというのがある程度あった方がいいのかなと感じました。以上です。

（青木部会長）

ありがとうございます。防災の視点は、高齢者、「要援護者」と言うんですけど、そちらの方々の避難、救助の仕方等々、私も防災の方に少し絡んではおるんですけど、やっぱりどの会議やどの現場でも相談事項になりまして、今日行った階段の差が、実は県の説明でもあったように、一般のよりも少し幅を緩くしているんだよと。また、斜度を緩くしているといって、自分で歩ける方はもちろん、８０歳でも年齢的に非常に難しいなと思いながらも、対策というのは、今後、車いすの方ですね、特に。車いすや超高齢者、まあ８０歳後半、９０歳近くの方をどういうふうに早く地域の方で助け合いながら避難させるかと

いうのは、これはもうどこの自治体等でも課題にあがっていることだと思います。そういった視点で見ていただきました。

また、ＩＣＴの最後の長期的なビジョンですね。やっぱりそれは確かにそうですよ。蔭山さんが仰るとおりだなと、今、意見を聞いて、そう言われたらそうだなという認識も実は、私もＩＣＴの方は詳しくないので、漠然とイメージすると、そういった視点で長期的なビジョンの描ける、継続できるようなところに雇用をつなげていくというような視点であったかと思います。ありがとうございます。

では、川眞田さんお願いいたします。

（川眞田委員）

いくつか見せていただいた中で、私は「(株)あわえ」さんが一番印象に残りました。

私はＮＰＯの職員なんですけど、地域づくりとかという話になると、どうしても非営利で活動していくということが多いかと思うんですが、持続可能性という点で、「利益を上げながらそういうことができるんだ」ということを世の中に示したいという意志は、あまり私は触れたことがなかったので、すごく印象に残ったし、個人的には、すごくいい考え方だなというふうに感じました。

もう一点が、「収益を上げていく」という点で、「移住」とかっていうことに対して、「パッケージにして商品化していきたい」という考えを持っていらっしゃって、ちょうどタイムリーで、私も大阪から徳島に移住したいという方の、人づてに「どこに住んだらいいか」とか、「みんな、就職とかどういうふうにしているんですか」っていう話を、かなり相談を受けたことがつい先日あって、「どこを見て調べたら、自分が移住したいと思っているエリアの情報が入ってくるのか、というのが、県外に住んでいるとわかりにくいので、地元の人に聞いて回っています」ということなんですけど、もし、これがワンストップで、それこそパッケージ化されていて、そこで３年とか住んでみて、で、徳島県に慣れて、自分の好きなエリアが見つかったら引っ越しするとかというのが、すごく現実的な在り方かなと思うので、そのパッケージ化ができればいいなということと、あと、今回県南の方だったんですけれども、多分、仕事という点でいうと、どうしても徳島市内に移住される方が多くなるのかなと思うので、徳島市内の方でも移住者の支援というのがもう少し進めばいいのかなというふうに感じました。以上です。

（青木部会長）

ありがとうございます。今、言われた、「移住支援のワンストップ化」ですね。その支援は非常に僕も大事かなと。多分、皆さんも聞かれて、「ああそうだ」というふうに思ったんじゃないかなと思います。

それとまた「収益を上げる」という視点ですね。「(株)あわえ」さんですね。それもやっぱり明確に確かにそういう説明を受けましたので、ＮＰＯじゃなくて、新しい、会社としてのしっかりとした収益、利益を上げるという視点というのも今後大事じゃないのかなと思います。ありがとうございます。

次、榊原さんお願いいたします。

（榊原オブザーバー）
私が思ったことは、由岐町の浜さんがおっしゃった言葉で、「避難を呼びかけても出てこない人がいる」というあたりで、「健全なコミュニティをつくっていくことが重要だ」という話を聞いたときに、市内だけでなくて、やっぱりこういう小さな町であっても、コミュニティというのはだんだん薄れていっているんだなというのがとても印象深かったです。
コミュニティって、どこででも薄れてきているんですけど、このあたりでも若い人が少なくなって、大きなお祭りがだんだん継続できなくなったとか、あと冠婚葬祭をやっぱり大きな式場とか、そういうところでするというので、地域で一緒に何かをするというのが、ちょっとずつ少なくなってきているのかなというあたりで、今回のサテライトオフィスで、若い方が徳島に来てお祭りを一緒にする。で、地域を盛り上げていく中で、近所の人同士のコミュニティというのを再生していくという上で、このサテライトオフィスというのは、健全なコミュニティ再生にも重要な役割を果たしているんじゃないかなというのを一つ感じました。
あと、サテライトオフィスを見させていただいたときに、最初、見せていただいた「美雲屋」の外観と中身のギャップにすごく驚いて、何か一種の芸術性というか、最近流行の「リノベーション」、きっとこの地域、使ってない古民家がたくさんあると思うんですよね。なので、そういう古民家をリノベーションして、それ自体芸術作品、最後に見せていただいた銭湯、あれも建物自体がすごい芸術的だなというふうに私は思ったので、それ自体が観光にならないかなと。で、そのリノベーションした建物を宿泊施設にする。で、地域の海だったり、川だったり、山だったりというのが観光の資源としていくという活用の仕方というのができないかなと。で、リノベーションしていくことで、地域の大工さんであったり、いろんな新しい雇用というものも生まれてくるのかなというのを少し感じました。以上です。

（青木部会長）
ありがとうございます。コミュニティづくりは、本当に小さな町でもやっぱりきちっとつくっていかないと、大きなところで壊れていくと言えば言葉が悪いですけど、小さな町でもだんだんそうやって何かするときに、コミュニティがなかなか上手く回っていかないという視点があろうかと思いますので、やっぱり、コミュニティづくり、地域で何かするときにはワーッと集まって、お祭りの今日お話をいただいたんですけれども、そういった視点は非常に大事かなと思います。
また、地域の古民家のリノベーションですね。これも非常に大事で、「美雲屋」はほんまにびっくりしたなと。初めて見た人は多分びっくりするじゃないかなと、本当に。外と中に入ったときのギャップは確かにあったかと思います。
それと、「(株)あわえ」さんのやっぱり銭湯ですね。あれ、今日、僕一番びっくりしまして、写真何枚も撮ったんですけども、やっぱりそういった、同じ県内に居る我々が見ても思うことは、もっと県外の方や、外国の方が見られたときに、もっと衝撃的な芸術的なことを思うんじゃないかなと思いますので、それを観光につなげたいという視点でお話しいただいたかと思います。ありがとうございました。

では、島さんお願いいたします。

（島オブザーバー）

由岐の浜さんのお話の中で、「災害で被災することを前提として地域づくりを考えて、町づくりを計画するということが重要なこと」とおっしゃってたんですけども、それは私も重要だと考えます。最近、「防災」という言葉から「減災」という言葉がよく使われるようになっているかと思うんですが、今まで災害を「防ぐ」ということでしてましたけど、災害を起こり得るものとして、実際起こったときにそれをいかに減らすかという視点で最近取り組んでいると思います。その中で、今日、浜さんのお話で、住民の方がちょっと一種のあきらめ感をもっているということを聞きまして、結構衝撃を受けました。そんな中でコミュニティを健全に保つことが重要ということで、それに関連もしてくると思うんですけれども、災害が起こった際に、受援体制の確立というのが必要かと感じておりまして、いざ起こったときにはどういうものが必要で、避難所には何が必要かとか、そういうのを想定しておくことが必要なのかなと思っております。

徳島県だったら、鳥取県とカウンターパートをとっていると思うので、そういう体制づくりというのも必要なのかなと感じております。

サテライトオフィスに関しては、感想になるんですけど、海があるとか、山があるとか、徳島県民にとってこれは当たり前というか、一種の魅力ではあるんですけれども、県外の人が徳島の魅力をここに来て発信しているということ、それは非常にありがたいことではあるんですけれども、やっぱり徳島県民として、自分自身で感じて、もっと良さに気付いていけたらなということを感じました。以上です。

（青木部会長）

ありがとうございます。島さんもコミュニティのことと、また、準備とカウンターパートの体制づくりですね。被災した場合に被災していないところが助けておるという、もっと広域の本当の、各都道府県を越えたような広域的なカウンターパート方式の体制づくりというのを望んでおると。

それとまたＩＣＴについては、良さに気付くという視点を、我々県民もそうですけど、やっぱり内外にアピールしていきたいという視点であったかと思います。ありがとうございました。

高木さんお願いいたします。

（高木オブザーバー）

最初に行きました由岐の方なんですけど、我々行政といいますか、ハード整備の方とかにちょっと目がいきがちなんですけども、今日説明していただいた浜さんの方からは、「行政とボタンの掛け違い」ということがよく出まして、すごく身につまされる感じがしたんですけれども。防災・減災対策を進めていかなければならないところはある反面、丁寧な説明も必要ということをおっしゃってました。そこらへん気をつけながら、情報発信なり話し合いといいますか、ソフト面を含めて対策を進めていく必要があるのかなというのを改めて感じました。

サテライトオフィスの方なんですけれども、山あり海がありというのは、結構、徳島県もあるんですけど、他の県もあると思うんですが、「何で徳島県に来るのかな」というのを素朴に疑問に感じておったんですけれども。成功例とかがやっぱり徳島県で一つでも二つでもできたということで、それで安心して来ていただけるところがあるのかなというので、大切にこの成功例というのをこれからも続けていって、つくっていくことが重要なのかなと。新しいところに来ていただくのも重要なんですけど、今来ていただいているところに上手くいっていただけるような支援といいますか、そういったものを続けていくことが必要だと思います。

それと、今日の「サイファー・テック(株)」の社長さんなんかは美波町出身の方ということで、地縁・血縁とかもやっぱり重要になってくると思いますので、県人会とかもあるんですけれども、そういったところに徳島県の取組であったり、地元がどうなっているかという情報発信、そういったところも工夫していけたら、将来、徳島県に出身者の方が貢献していただけるような仕組みといいますか、そういった方もまた今後出てきていただいて、町に貢献していただけるようになるのかなと思います。以上です。

（青木部会長）

ありがとうございます。高木さんが言われたように、今日、浜さんの話の中で、何度も確かに言葉として「行政とボタンの掛け違え」だという視点を何度も言われておりまして、それは、高木さんの言っていただいたとおりかなと思います。

また、ＩＣＴに関しても、やっぱり僕は今まで成功した例ですね、神山町さんをはじめ成功例があったからこそ、次々と来てくれるような上手くいくシーンがやっぱり今後必要ではないかという視点を高木さんが言っていただいたと思います。

特に、県人会とか地元の情報発信の工夫ですね、それはクリエイト部会としても大きな発信という視点でいくと、非常に大事じゃないかなと思っております。ありがとうございました。

それでは、竹内さんお願いいたします。

（竹内委員）

防災については、まず皆さんの持たれている意識の持ち方であったりとか、あとコミュニケーションというのが非常にウェイトが高いのかなというふうに感じました。

あと、防災と人口減少もやっぱり密接に関連しているなと思いまして、サテライトオフィスは特効薬でも万能薬でもないんですけど、人口減少に対する解の一つにはなっているのかなと思います。

徳島県は、確かに今、サテライトオフィス、多分、圧倒的に先進県です。多分、ナンバーワンかナンバーツーかぐらいです。なんか島根県も結構、サテライトオフィスが進んでいると聞いているんですけど。今日、樋泉さんも忙しくて来られないぐらい視察、多分、毎日何組もいろんな県の方、企業の方、行政の方、民間の方、いっぱい来ている状態です。

徳島県は先進県なので、先行の利を活かして逃げ続ける施策も当然大事なんですけど、例えば、インターネットであるとか助成金であるというのは、真似しようと思えば真似できてしまうものなので、これは時間の問題で、いつかは追いつかれるのは間違いなくて、

先進県としては次のステージに移っていかなければいけない状態に今、徳島県はあると思ってます。

その助成金とかインターネットとか真似できるところを真似されたときに、じゃあ何が特徴なのかというと、やっぱり地域性しか売りというのはないんですよ。徳島県の地形であったりとか、文化であったりとか、人柄であったりというところに魅力を感じてくれる人たちが徳島県を選んでくれるという状態になっていかなければいけなくて、もしそれをしっかり発信していける、例えば文化だったら、しっかり発信するし、しっかり保存するし、というのをやっていかなければいけないなと感じてます。

今日の最後の「(株)あわえ」さんとかは、もう既にそういう視点を持って、そういうフェーズに向かっていっているなというのを感じて、素晴らしいなと思いました。以上です。

（青木部会長）

ありがとうございます。竹内さんが「徳島県は先進県だ」と自信を持って言ってくれたので、逆に嬉しく思いますし、逆に地域性を活かして、人や文化をしっかりと魅力を発信していくという竹内さんの今の意見の「発信」ですね。やっぱりそれをしっかりとＩＣＴに関して、今後、徳島県としては支援策等を続けていった方がという視点ですね。是非、今の御意見を酌んでいただきたいなと思います。ありがとうございました。

近森さんお願いいたします。

（近森委員）

今回、視察を通じて私が思ったキーワードは「祭り」だなと思いました。最初に「避難祭り」というので、グッとこうつかまれて、３箇所サテライトオフィスを回ったんですけど、全部に「祭り」という言葉が出てきて、今回は「祭り」だなと思いました。

それで、皆さんの話を聞いていまして、祭りをするためには、もちろん人が要る。特に若い人たちが要るということで、若い人たちが居るからこそ活性化するということもすごく重要だなと思いました。今回、サテライトオフィスに若い人たちが何人か定住しているというところで、そういう人たちが来てくれることによって町が活性化するということの代表なことが「祭り」なのかなというふうに思いました。

前回行った西部と違うところが、防災の方向から見たときに、西部だと、「元気なお年寄りが、ちょっと足の悪い人たちをサポートしましょう」みたいなことを言っていたと思うんですけれども、今回は、どうしても防災になると、例えば歩ける人にしろ、やはりそこに誰か介助する人が要ると思うんですよね。どうしても弱者になってしまうところに、そういう若い人たちが居るというところで、防災のことを考えるにしても、そういう若い人たちが居るということがどれだけ助けになるというか、今後、考えていくときに、若い人たちの存在というのがすごく重要だなと思いました。

でも一方で、浜さんにすごく疑問になったのでお聞きしたことがあるんですけれども、「生計は何で立てているんですか」と聞いて、もちろん自分の土台がしっかりしていないと地域のためにも働けないと思ったので。「町役場で働いてます」ということをおっしゃったので、「やっぱりそうだろうな」と思ったんですけど。どういうふうにして御飯を食べているのかなという、自主防災組織の事務局長ということで御紹介いただいたので、実

際、お仕事をどうされているのかなと思ったんですけど。若い人たちとか地元の人たちが、そういうところで暮らしていくためには、やはり一番大事なのは「雇用」だと思いました。
　で、あともう一つは、「地域のために働く」というその気持ちが大事だと思ったんですよね。いくらそういうところでお仕事をされていたとしても、実際活動として、そういう気持ちになるというのは、つくられるものではないと思うんですよね。どうしても必要性を感じて、子どものためにとか、地域のためにという、浜さんもおっしゃってたんですけども、「人のために。自分のためではなくて、地域の人のためにやってます」というふうにおっしゃっていました。さっき言っていた「地域おこし協力隊」とかは、ある意味、つくられたものなのかなと思ったんですよね。そこで、強制的ではないんですけど、そういうふうにしてしまうと、それこそ「地域とその方とのボタンの掛け違え」じゃないですけど、そういうのが起こり得ることなのかなと思って、そのへんの「行政が」とか「民が」とかいう、そういうところでもないので、そのへんはすごく難しいかとは思うんですけど、どういうふうにして、そういう人たちに「自分がやらなければいけない」とか必要性を感じさせることができるのかなと。今ここに居る皆さんも、そういう気持ちがお有りな皆さんだと思うので、どういうふうにしたら、そういう気持ちって出てくるのかなというのは思いました。

（青木部会長）
　ありがとうございます。一番初めの「祭り」の視点ですね。それはもう多分、皆さん感じたことだろうと思います。どこに行っても、祭りに参加して、祭りが行事にあって、祭りが大変なんだという話をたくさんしていただいた視点があったかと思います。それには若い人が必要で、若い方の雇用や、また最後言っていただいた「気持ち」ですね、「人のためにそうするんだ」という「気持ち」がやっぱり一番の視点だったかなと思います。ありがとうございます。
　では最後、村松さんお願いいたします。

（村松委員）
　「祭り」ということが出てしまって、喋ることないなという感じなんですけど。私も祖谷の過疎地に移住した一人として、それこそ「美雲屋」さんでおっしゃっていた、９月、１０月、夏から秋にかけては、お祭り、お祭りで、毎週どこかでお祭りがあるような、そんな感じで、スタッフ総出で順番で出ているような感じで、すごく同じだなと思ったんですけど。本当にお祭りって地域が盛り上がることでもありますし、何かこう脈々と受け継がれていて、そもそも同じお祭りはだいたい年に一回しかないんですけれども、その役割分担であったり、習慣であったり、何か書面で残されたりとか、毎週何か会をしているわけではないのにみんな覚えていて、必ず同じようにやって、おみこしはだいたいそこにあって、何をしなくちゃいけないとか。毎年その役割は変わるんですけれども、受け継いで、お互いにフォローしあいながら同じことを継続していくというふうな。それで、誰しもそれの重要性というのを共通認識しているところがすごいなと思いまして。
　そのお祭りと一緒に、防災の避難訓練だったりとかやったりとかすれば、出てきてくれないおじいちゃん、おばあちゃんとかっていうのを、よっぽど足が悪かったりとかで残念

ながら出てこれないという、おじいちゃん、おばあちゃんはもちろんいるんですけど、行きたくないという方は基本的にはいないと思うんです。むしろ「行きたい」という思いもあるし、「住人であれば義務である」という思いがすごく強くあることなので、そういった意味でも、もともとある伝統的なお祭りの機会にそういう防災の訓練であったりとか、そういうことも組み込んでいければ、もう少しコミュニティのつながりの中に、上手く防災の意識が組み込められるのかなというふうにも思いました。

（青木部会長）
ありがとうございました。やっぱり「お祭り」だということで、祭りから、そういった防災訓練や人をつなげていくというふうな視点だったかと思います。ありがとうございます。
それでは、ほか何か御意見等ございますでしょうか。一応、一通り全員から今日の視察への感想とか御意見をいただいたんですけれども、何かほかにちょっとこれだけはお話しとかないかんなとか、何かこういうキーワードがあるんじゃないかということがあれば、お出しいただければと思います。

（岡田委員）
ちょっと気になっていたのは、東北のときの話で、昔ながらの道がすごく便利に使えたというのがあって、例えば、「『四国のみち』を逆に守ってくれ」みたいな話があったりはするんですけど、「それを活性化するためにどうすればいいか」とかいう話があるんですけど、じゃあ「『四国のみち』が防災的な視点で使えたらいいんじゃないか」とか、「『四国のみち』のスポットに、『お遍路道』でもいいんですけど、何かそういう防災グッズがあれば役に立ったり」とか、という話を聞いたんですけど、それだけちょっと思い出しましたので。

（青木部会長）
ありがとうございます。確かに「四国のみち」、そういう防災的な何かがあればね、確かに、四国の人間のみならず、お遍路さんの道というのはイメージできると思うんですよ。そしたら逆に、そういうのがあるよという情報発信にもなるし、それを防災につなげるという・・

（岡田委員）
つなげたり、そういうものを使って、地域活性みたいなものをしていってもいいのかなと思います。

（池添委員）
美波町の方はお詳しいと思うんですけど、阿部地区では、実際に獣道みたいなところを自分たちが避難路として何回も通るようにして、その下に杖とか置いて避難路をつくったりとか、それから、地域としてやっぱり今日視察させていただいたところはすごく先進的で、そういうことまで考えていて、昔の道も探していて、やっぱりそこまで本気でしたら

できるんだなという地域だと思うので、本当、市内とかがどうなのかなっていいますかね、他の徳島市内とか。

（青木部会長）
それはもうしっかりと御意見を言っていただいて、進めていただければと思いますね。
岡田さんも、池添さんもありがとうございました。
このあたりで意見交換終了でよろしいですかね。それでは、このあたりで意見交換を終了したいと思います。
本日、皆様方からいただいた意見につきましては、新たな政策創造の種、ヒントとして出させていただきますので、事務局において今後の施策等に活かしていただければ幸いでございます。

それから、今後の部会の運営なんですが、まず、御案内のとおり、部会としての活動ではありませんが、当部会に出席要請のありました、１１月３０日（土）に徳島大学で開催される「とくしま『若者Ｌ・Ｅ・Ｄ』教室」に我々委員が参加し、大学生の皆さんと「徳島の未来」について、意見交換を行うこととなっておりますので、参加される委員の皆様、どうぞ、よろしくお願いいたします。

そして、今度は部会本体の話になるんですけど、次回は今年度最後の部会として、年度内に開催することとして、二度にわたる現地視察や１１月３０日の学生さんとの意見交換を踏まえて、今年度の部会活動を総括する「まとめの会」にしたいと考えておりますが、いかがでしょうか。
最後は「まとめの会」でいいですかね、皆さん。「いやいや青木さん、そうじゃなくて何かしたいよ」というのがあれば、もちろんまた検討しますけれど。よろしいですか。
では、異論がないようですので、そのようにさせていただきます。
また、次回の日程等の詳細につきましては、「メーリングリスト」にて調整させていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

最後に事務局から何かございますでしょうか。

（事務局）
本日の会議録につきましては、事務局で取りまとめました後に、皆様に御確認いただきまして、公開の運びとしたいと考えておりますので、よろしくお願いします。
それから、この際、南部さん何かあるんですよね。

（南部総合県民局）
せっかくの機会でございますので、堅い話題の中、少し柔らかい話題を宣伝させていただけたらと思います。
ピンクの方のチラシを御覧いただきますと、今週の土曜日、日曜日、１６、１７でございますが、「第３回食博覧会」というのを、部会長さんのお近くですね、阿南市の桑野の

方で開催したいと思っております。一昨年、丼を開発しまして、昨年、鍋を開発しました。今年は「スイーツパラダイス」と書いてございますが、南部の圏域で「天草」とか「阿波晩茶」、「すだち」を使ったスイーツも開発いたしました。こういったものをたくさん御用意させていただいておりますので、天気の方もなんとか良さそうでございますので、是非来ていただけたら幸いでございます。

もう一点、こちらは、「キャンパスボーイ」さんが出ている分でございますが、「阿佐海岸鉄道の旅」ということで、「恋活列車」というのをやろうかと思っております。１２月７日土曜日ということで、２０歳以上の方から３９歳までの独身の方々ということで、こちらの方は４千円ちょうだいするんですけれども、豪華な昼食も御用意させていただいておりますし、また、阿佐海岸鉄道を使いまして楽しいイベントも考えてございます。１１月２９日までが受付期間でございますので、また、お知り合いの方に御紹介いただけたらなと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

（青木部会長）

ありがとうございます。是非、今、南部総合県民局さんおっしゃったように、この「第３回食博覧会」と「阿佐海岸鉄道の旅」ですね、また皆さん、若者クリエイト部会としてもＰＲしてまいりたいと思います。お願いいたします。

それでは、これで本日の会議を終わらせていただきます。

会議運営に御協力いただきました、本日は、南部総合県民局の皆様方、また、美波町の皆様、企業の皆様、本当にありがとうございました。また、総合政策課の皆様、御配慮ありがとうございました。代表してお礼申し上げます。ありがとうございます。

（事務局）

それでは、最後に、七條・政策創造部副部長が御挨拶申し上げます。

（七條政策創造部副部長）

委員、並びにオブザーバーの皆様方におかれましては、今日の１２時からという非常に中途半端な時間で申し訳なかったですけど、長時間にわたりまして現地視察、並びに意見交換会ということで、本当にどうもありがとうございました。

今回、「人口減少時代における地域を支える仕組み」をテーマに、８月に西部地域、そして今回、南部地域におきまして、防災とか地域振興策につきまして、現地視察をさせていただいたところでございます。

条件が厳しい地域ということで、いろいろ工夫をされているということを、皆さんそれぞれ頑張っているということを、皆さん御覧になっていろいろ感じるところが多々あったかと思っております。２回の現地視察でやっぱり意見を聞いてみますと、それぞれ「なるほどな」というような意見が多数ございましたので、

今回初めて「視察」という形でやらせていただきましたが、大きな成果があったのではないかと考えております。

生で現場を見たからこそ、気付いたこと、感じたことなど、より幅広い視点で、若い皆様方ならではの、柔軟で自由な発想に加わることで、今後の「徳島の未来創造」に向けた実りある議論につなげていきたいと思っておりますので、この２回の現地視察で感じたことを、今回はちょっと短時間であったんですけれども、「まとめの会」などで更に議論を深めて、これからの徳島県の政策のシーズにしていきたいと考えておりますので、どうか、今後ともまたよろしくお願いいたします。

本日はどうもありがとうございました。

（事務局）

以上をもちまして、本日の若者クリエイト部会を閉会させていただきます。

本日は、どうも大変ありがとうございました。

（以上）